

1 まちづくり政策（教育部関係分）

政策 6 子 育 て ・ 教 育	政策展開の方向性																										
	<p>安心して子どもを産み育てられるよう、子どもが健やかに育つ環境づくりと、仕事と子育てを両立できる子育て世代にやさしいまちを目指します。</p> <p>また、子どもの権利を尊重しながら、地域全体で子育てを温かく見守るまちづくりを進めます。</p> <p>教育では、学校などでの様々な学びが、子どもたちの「生きる力」となり、今後、社会が変化し先行きが見通せない時代となっても、自分で課題を見つけ、学び、考え、判断、行動して、それぞれが思い描く夢を実現していく資質や能力が身に付くよう、地域とも連携して子どもたちを育みます。</p>																										
	令和6年度 of 取組状況報告																										
	6-（2） 子どもの教育の充実																										
<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育では、各中学校区において、中学校卒業時における「目指す子ども像」を学校・家庭・地域で共有しながら、学習規律や生活規律を揃えた一貫した指導や系統的な指導を行い、中学校登校や乗り入れ授業など相乗的・補完的な指導に精力的に取り組み、児童生徒の自己肯定感の高揚や「中一ギャップ」の解消に努めました。 ・国が掲げる「GIGAスクール構想」に基づき整備したICTを効果的に活用するとともに、令和6年度は、デジタル田園都市国家構想交付金を活用しAIドリル等を全小中学校に導入するなど、児童生徒の系統的な情報活用能力の育成と個別最適な学びの充実を図りました。また、自動採点システムを市内中学校に導入することにより、教職員の業務の効率化を図り、子どもたちと向き合う時間の確保に努めました。 ・地域とともにある学校づくりに向け、学校のニーズに基づき地域ボランティアや学生ボランティアを多数派遣したほか、学校・家庭・地域が相互に連携して子どもを育てる持続可能な仕組みづくりのため、えべつ型コミュニティスクール事業を進め、学校活動への参画促進に取り組みました。 ・児童生徒が授業の内容を理解し、確かな学力を身に付けられるよう、全小中学校に学習サポート教員を派遣し、ティームティーチングや放課後の補充的学習等に取り組んだほか、外国語指導助手を派遣することにより、英語に慣れ親しみ、異文化を理解・尊重する態度やコミュニケーション能力を伸ばす教育に取り組みました。 ・市内大学と連携した小学校への体力向上プログラム出前授業や、正しい走り方を身に付けるための「走り方教室」を継続して実施し、児童生徒の体力向上に繋がるよう取り組みました。 ・中学校の部活動において、部活動指導員を3校にモデル導入するとともに、関係者等によるワークショップの結果を踏まえ、学識経験者等による在り方検討委員会での議論の結果、部活動の地域展開に関する提言書が取りまとめられました。 ・学校における読書活動の充実を図るため、学校図書館の蔵書率向上に努めるとともに、情報図書館と連携し、司書の巡回配置と学校要望に応じた随時支援により読書環境整備や朝読書などに取り組みました。 ・特別な支援や配慮を必要とする児童生徒に対する適切な教育を行うため、特別支援教育支援員の配置の拡充や施設整備、専門家チームの巡回相談による助言を行ったほか、特別支援教育に関する教員及び支援員の資質向上を図る研修を実施しました。 ・様々な不安や悩みを抱える児童生徒を支援するため、スクールソーシャルワーカーを1名増員して4名体制とし、学校・福祉・医療などと連携して課題の改善に取り組みました。 ・いじめの未然防止・早期発見・早期対応のため、児童生徒にいじめを許さない意識を醸成させるとともに、いじめアンケート調査等により学校が認知したいじめの組織的な対応に努めました。 ・不登校又は不登校傾向にある児童生徒の教育機会及び居場所の確保を図るため、常設会場として運用を開始した教育支援センター「ねくすと」での支援のほか、各学校が設置する校内登校支援室へのボランティアの派遣など支援の充実を図りました。 ・物価高騰により学校給食の原材料費が上昇している中、原材料を購入している江別市学校給食会に対して補助金を交付することにより、保護者負担を増やすことなく、栄養バランスや量を保った給食を提供しました。 ・施設の老朽化などの課題に対応するため、学識経験者等による検討委員会を設置し、サウンディング型市場調査や児童生徒・保護者等へのアンケート調査も踏まえた議論の結果、今後の学校給食の在り方について提言書が取りまとめられました。 ・安全安心な教育環境を確保するため、「江別市学校施設長寿命化計画」に基づき、校舎改修や設備更新等を進めたほか、学校施設の暑さ対策として、全小中学校の保健室へのエアコン整備や、小学校8校の普通教室等へのエアコン設置に向けた実施設計を行いました。 																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>政策の成果指標</th> <th>単位</th> <th>(初期値)</th> <th>R6年度</th> <th>R7年度</th> <th>R8年度</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>江別市は、教育施策に力を入れているまちだと思う市民割合</td> <td>%</td> <td>43.0</td> <td>36.9</td> <td></td> <td></td> <td>↑</td> </tr> <tr> <td>自己肯定感が高い児童生徒の割合</td> <td>%</td> <td>77.5</td> <td>84.3</td> <td></td> <td></td> <td>↑</td> </tr> </tbody> </table>							政策の成果指標	単位	(初期値)	R6年度	R7年度	R8年度	目標	江別市は、教育施策に力を入れているまちだと思う市民割合	%	43.0	36.9			↑	自己肯定感が高い児童生徒の割合	%	77.5	84.3			↑
政策の成果指標	単位	(初期値)	R6年度	R7年度	R8年度	目標																					
江別市は、教育施策に力を入れているまちだと思う市民割合	%	43.0	36.9			↑																					
自己肯定感が高い児童生徒の割合	%	77.5	84.3			↑																					

教育部が所管する個別計画または重点事業の進捗状況						
「学校教育基本計画」 授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいた児童生徒の割合	%	78.6	83.2			↑
「学校教育基本計画」 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思える児童生徒の割合	%	88.6	87.0			↑

政策 7 生涯学習・文化・スポーツ	政策展開の方向性	
	<p>全ての市民が、いつでも、どこでも学習活動、文化・芸術活動や、スポーツ活動を気軽に行える環境を提供し、いつまでも心身ともに健やかで充実した生活が未来へ続くようになります。</p> <p>また、江別市の貴重な地域資源である、やきもの文化や歴史遺産を通じて、ふるさと愛の醸成を図ります。</p>	
	令和6年度の取組状況報告	
	7-（1） 生涯学習の充実	
	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館や情報図書館をはじめとする社会教育施設について、生涯学習に取り組む市民や活動団体等に、安全で快適な学習環境を提供するため、「江別市公民館等長寿命化計画」、「江別市情報図書館長寿命化計画」などを踏まえた適切な維持修繕等を行ったほか、情報図書館では照明機器のLED化工事を行いました。また、公民館では、施設の暑さ対策として、ロビーのエアコン整備を実施しました。 ・生涯学習活動に取り組む社会教育関係団体が自立し、主体的に活動を展開していけるよう、各活動団体が行う事業への補助や、公民館施設等使用料の減免など、活動団体の安定的な運営への支援を行いました。また、市広報紙やホームページ、SNSなどにより、様々な学習機会の情報提供を行いました。 ・市民の多様な学習要求に応えるため、市内関係機関・団体と連携して「えべつ市民カレッジ」を実施し、総合的に学ぶ機会を提供しました。 ・青少年の健全育成に取り組む地域の住民団体やボランティア団体をはじめとした育成団体の活動を支援するとともに、育成団体と協働して、地域の自然、文化、産業等の資源を生かした、小中学生を対象とした江別の魅力である「食」と「自然」を満喫できる体験型学習を実施したほか、様々な体験活動の機会を提供しました。 ・デジタル技術を活用することにより、利用者の利便性の向上と業務の効率化を図ることを目的として、情報図書館の図書資料へI Cタグを貼付し、セルフ貸出機等を設置しました。 	
	7-（2） ふるさと愛の醸成と地域文化の継承	
	<ul style="list-style-type: none"> ・質の高い文化・芸術を鑑賞する機会や幅広い活動の場を提供するため、音楽・演劇公演の開催や文化活動団体の事業に対し支援を行いました。 ・「北海道林木育種場旧庁舎」の歴史的価値の周知と地域の交流促進を目的として、市民を対象とした歴史セミナーや、市内大学及び施設利用事業者との共同によるワークショップを実施しました。 ・リニューアルオープンした「旧町村農場」では、より多くの方に利用いただけるようキッズスペースや多目的室を設置したほか、酪農の歴史や文化を発信するため、市民を対象としたセミナー等も実施しました。 ・郷土資料館では、ふるさとへの理解を深める機会を提供するため、埋蔵文化財や衣類に関する企画展や各種歴史講座、小学校の総合学習への支援等、郷土史学習に関する事業を実施しました。 ・文化財の適切な管理と安全・安心な郷土史学習の環境を提供するため、経年劣化した郷土資料館の重油タンクの更新工事等を実施しました。 ・セラミックアートセンターでは、開館30周年記念展として、「人間国宝鈴木藏の志野展」並びに「えべつ縄文文化展」を開催し、先史時代から現代に至るまでのやきもの文化を紹介し、陶芸文化の普及に努めたほか、幅広い世代に対応した各種陶芸教室等を開講しました。 ・令和6年6月にセラミックアートセンター所蔵の北炭製れんがが日本遺産の構成文化財に認定されたことを受け、「れんがのまち えべつ」への理解を深めてもらうため研修会や展示解説会を開催しました。 	
	7-（3） 市民スポーツ活動の充実	
	<ul style="list-style-type: none"> ・体育施設管理団体と連携し、体育館をはじめとするスポーツ施設の適切な施設運営に努めたほか、「江別市スポーツ施設長寿命化計画」に基づき、市民体育館管理棟の外壁等改修や、東野幌体育館体育室の床改修を実施するなど、各施設の適切な維持・改修整備を行いました。 ・令和6年5月から小中学生の体育施設個人使用料を無料とし、子ども達が気軽にスポーツに親しめる場の提供に努めました。 ・利用者アンケートなどを通じて市民ニーズを正確に把握し、各種スポーツ教室の指導方法の工夫に努めました。 ・幅広い年齢層に対応した活動機会の提供、及び地域や関係団体との連携によるスポーツ活動団体活性化のため、活動団体への補助や軽スポーツ普及への支援を行いました。 ・ホッケーを通じた地域の活性化に寄与することを目的に、日本ホッケー協会から令和6年10月に「公式ホッケータウン」の認定を受けました。 ・トップアスリートとの交流により、スポーツへの関心を高めるため、「水泳の日2024・北海道」において、開催地自治体として日本水泳連盟や関係機関と協力し合い、円滑な大会運営を支援し、市民スポーツ活動の振興を図りました。また、障がい者スポーツの支援として、北海道特別支援学校フットサル大会の開催・運営協力を行いました。 	

政策の成果指標	単位	(初期値)	R6年度	R7年度	R8年度	目標
文化・芸術活動に参加している市民割合	%	26.6	26.8			↑
週1回以上スポーツ活動に親しむ市民割合	%	44.2	45.0			↑
教育部が所管する個別計画または重点事業の進捗状況						
「社会教育総合計画」 生涯学習の機会が充実していると思う市民割合	%	62.2	67.5			↑
「社会教育総合計画」 文化財や歴史遺産の活用により、個性豊かな文化が育っていると思う市民割合	%	35.3	36.0			↑
「スポーツ推進計画」 スポーツ機会が充足していると思う市民割合	%	63.8	69.0			↑

政策 8 協働・共生	政策展開の方向性																											
	<p>江別市自治基本条例で掲げる市民自治の理念に基づき、市政への市民参加を進めるとともに、市民、自治会、NPO、ボランティア・市民活動団体、企業、大学などの各種団体と連携し、魅力ある協働のまちづくりに取り組み、多様な主体があるままに暮らせる共生のまちを目指します。</p> <p>また、グローバルな視点に立ち、人材・団体の育成を行うほか、国際交流を推進するとともに、在住外国人にとっても住み良いまちを目指します。</p>																											
	令和6年度 of 取組状況報告																											
	8 - (1) 協働のまちづくりの推進																											
	<ul style="list-style-type: none"> ・当市及び友好都市である高知県土佐市の小中学生が、互いに歴史・文化・産業を学び、実際に両市を訪れて異なる生活や風土を肌で感じることでできる小中学生相互交流事業を実施し、相互理解を促進し、友好親善を進めました。 																											
	8 - (3) 国際交流の推進																											
	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流を担う団体や、その活動拠点となる江別国際センターの維持・管理を補助し、国際交流に関わるイベントや外国語教室などの実施を支援しました。 ・子どもたちの国際理解を深め、国際交流の意識向上を目的とし、姉妹都市米国グレシャム市との中高生相互交流事業を実施するとともに、地域の国際化や国際交流の推進に大きな役割を担っている江別国際センターが主催する様々な交流イベントでは、多くの在住外国人の参加により、市民が多文化に触れることができ、国際理解が深まる機会となりました。 ・江別国際センターと連携・協力した日本語教室の開催のほか、国際交流員により在住外国人へ生活に必要な情報の提供を行いました。 																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>政策の成果指標</th> <th>単位</th> <th>(初期値)</th> <th>R6年度</th> <th>R7年度</th> <th>R8年度</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>協働によるまちづくりが進んでいると思う市民割合</td> <td>%</td> <td>27.2</td> <td>34.0</td> <td></td> <td></td> <td>↑</td> </tr> <tr> <td>お互いの文化や価値観を理解し、外国人と交流できる市民割合</td> <td>%</td> <td>60.7</td> <td>59.2</td> <td></td> <td></td> <td>↑</td> </tr> </tbody> </table>							政策の成果指標	単位	(初期値)	R6年度	R7年度	R8年度	目標	協働によるまちづくりが進んでいると思う市民割合	%	27.2	34.0			↑	お互いの文化や価値観を理解し、外国人と交流できる市民割合	%	60.7	59.2			↑
	政策の成果指標	単位	(初期値)	R6年度	R7年度	R8年度	目標																					
	協働によるまちづくりが進んでいると思う市民割合	%	27.2	34.0			↑																					
お互いの文化や価値観を理解し、外国人と交流できる市民割合	%	60.7	59.2			↑																						
教育部が所管する個別計画または重点事業の進捗状況																												
<table border="1"> <tbody> <tr> <td>「国際交流情報提供事業」 国際交流員が関わった地域国際化のための講座・イベント等の参加者数</td> <td>人</td> <td>846</td> <td>1,349</td> <td></td> <td></td> <td>↑</td> </tr> </tbody> </table>							「国際交流情報提供事業」 国際交流員が関わった地域国際化のための講座・イベント等の参加者数	人	846	1,349			↑															
「国際交流情報提供事業」 国際交流員が関わった地域国際化のための講座・イベント等の参加者数	人	846	1,349			↑																						

2 えべつ未来戦略（教育部関係分）

戦 略	■具体的施策 「関連事業」（担当課）
【戦略1】 子どもが主役のまちをつくる	④ 教育内容の充実 「小中一貫教育推進事業」（学校教育課） 「小中学校学習サポート事業」（学校教育課） 「小中学校外国語教育支援事業」（学校教育課） ⑤ 教育相談・支援の充実 「スクールソーシャルワーカー事業」（教育支援課） 「いじめ防止対策事業」（教育支援課） 「不登校児童生徒支援事業」（教育支援課）
【戦略2】 幸せに歳を重ねられる暮らしをとどける	
【戦略3】 みんなの働きがいと、元気な経済をつくる	
【戦略4】 地域から地球温暖化防止に挑む	
【戦略5】 デジタル技術で住みよい明日を切りひらく	

3 教育部の資源

		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
歳出決算額 (千円)	一般会計 (A)	3,344,243				
	特別会計 (B)	0				
	合計 (A+B)	3,344,243	0	0	0	0
正職員人件費 (千円)	人工 (a)	90.00				
	平均単価 (b)	7,695				
	人件費 (a×b)	692,550	0	0	0	0
総 額		4,036,793	0	0	0	0